

コールセンターからの小さなよみもの



2021年2月26日

Vol  
145

## 資産運用の「継続は力なり」!? コツコツ続ける積立投資の魅力

2月の日経平均株価は15日に終値で3万円の大台を回復しました。これは1990年8月以来、30年半ぶりのことです。上昇の要因として、米国のバイデン大統領が新型コロナウイルス対策として打ち出した大規模な経済対策やワクチン普及によって世界経済が回復に向かうことへの期待が高まったことなどが挙げられます。

株価が大きく上昇した際には、お客様から「今が売り時なのか」あるいは「今が買い時なのか」といった売り買いのタイミングに関するお問合せを頂くことがあります。

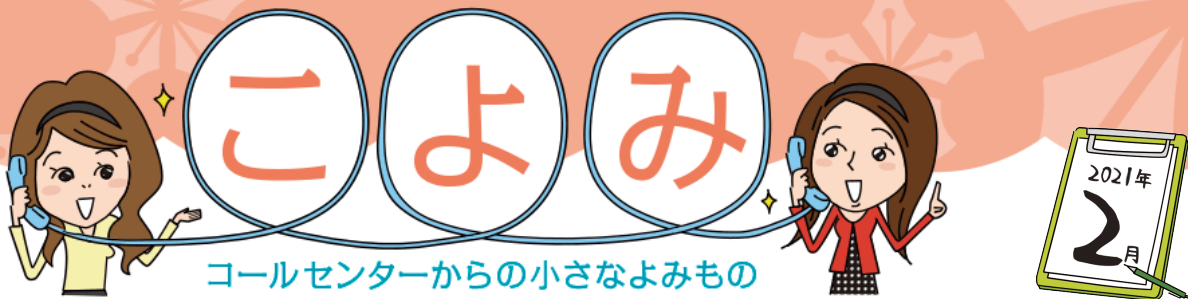
誰もが底値で買って高値で売却できればよいですが、最良のタイミングで売り買いするのは、たとえ資産運用のプロであっても至難の業です。

そこで、長期の資産形成の手法の1つとして、売り買いのタイミングを気にすることなく毎月一定額を積み立てる「積立投資」の魅力についてお伝えしたいと思います。

大切なことは「途中でやめないこと」と「覚悟をもって本気の積立を始めること」です。



株式の柱



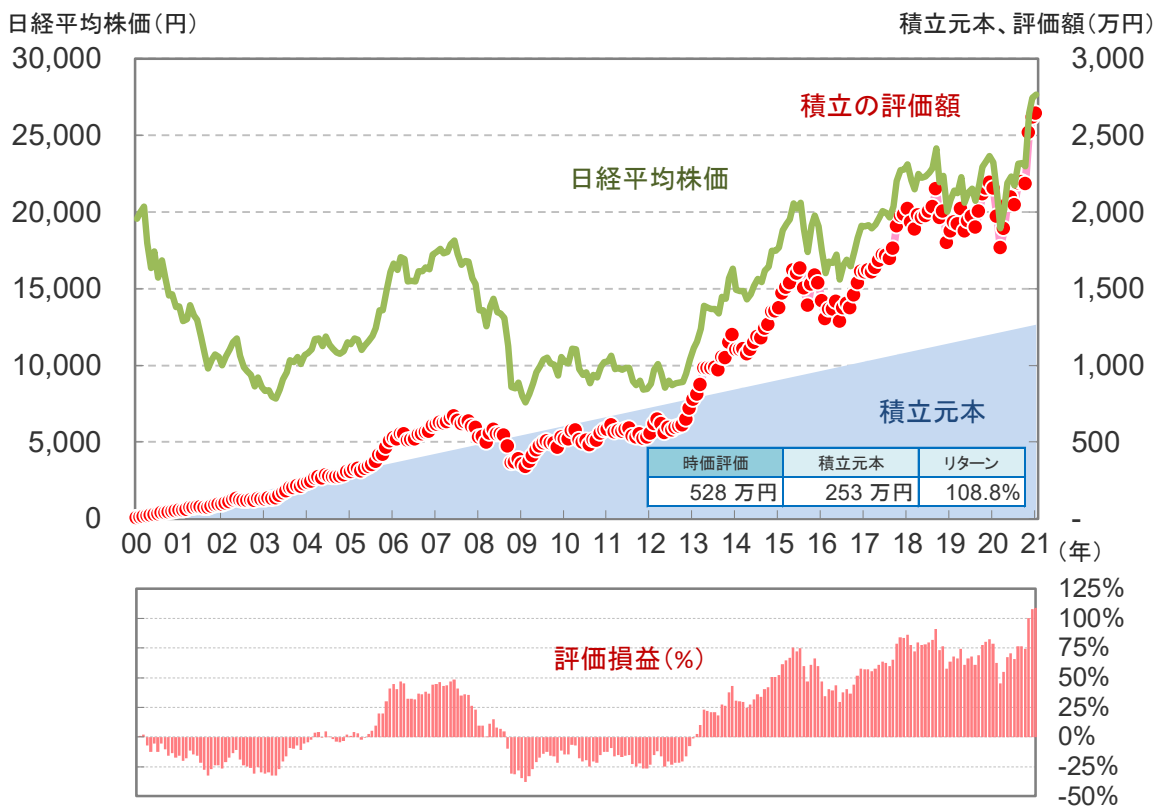
コールセンターからの小さなよみもの

投信積立の秘訣は“途中でやめないこと”

下図は日経平均株価にITバブルピークの2000年1月末から2021年1月末まで毎月1万円を積立投資した場合のシミュレーションです。積立対象である日経平均株価はスタート時の約2万円から下落したのち、21年間かけて、当初から約4割程度（約27,500円程度）まで上昇しました。しかし、この期間ずっと続けてきた投信積立の評価額はなんと108.8%のプラスでした。

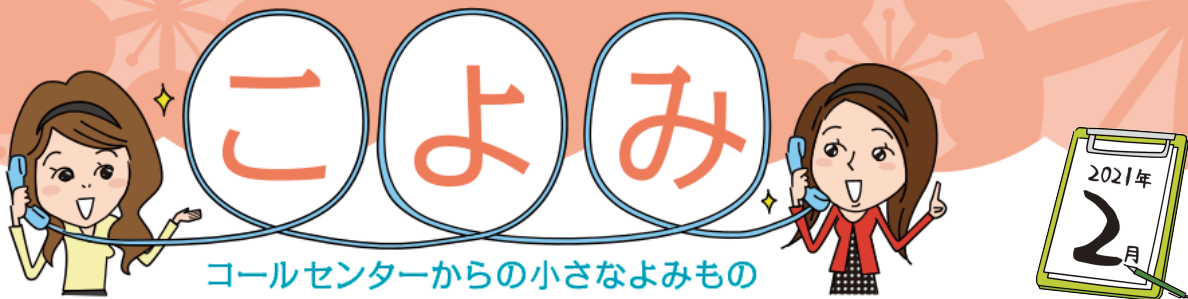
「積立対象が4割程度の上昇に対して、積立したものは2倍もあがっている。」これが投信積立の凄さです。その秘訣は下落した時に途中でやめなかったこと。それにより、安い値段で口数をしっかりと溜め込むことができ、溜め込んだ分が、その後の上昇時に大きく花開いているのです。

毎月1万円を日経平均株価に投資した場合のシミュレーション



日経平均株価の月末終値に積立投資を続けた場合の時価評価(税金・手数料を考慮せず)の推移を示したシミュレーションであり、積立投資が必ず利益があがることを保証するものではありません。期間：2000年1月31日～2021年1月29日  
信頼できると判断した情報をもとに日興アセットマネジメントが作成。

■ 当資料は、日興アセットマネジメントが情報提供を目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解および図表等は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■ 投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。



コールセンターからの小さなよみもの

## 積立投資は“下がっても嬉しい仕組み”

投信積立は株式のような値動きの大きい資産を対象にするのに向いていると言えます。もちろん値動きが大きければ、どこかで一度は元本割れを経験することもあるでしょうし、ハラハラドキドキしたり、ストレスが溜まることもあるかもしれません。

しかし、大切なことは「投信積立は下がっても嬉しい仕組みなんだ」、「上がるのは積立元本がしっかり溜まってからでいい」とばかり、悠々と続けることなのです。

## 始める時は“覚悟をもって本気の積立”で

投信積立で資産を増やすためには「積立金額を増やすこと」も大切です。積立金額を1万円ではなく5万円にしたのが次ページのグラフです。グラフの形は1万円です積立投資したものと同じになりますが、5万円の場合、積立元本は1万円の253万円に対し、1,265万円と大きくなります。そしてこの期間の時価評価は2,641万円となりました。

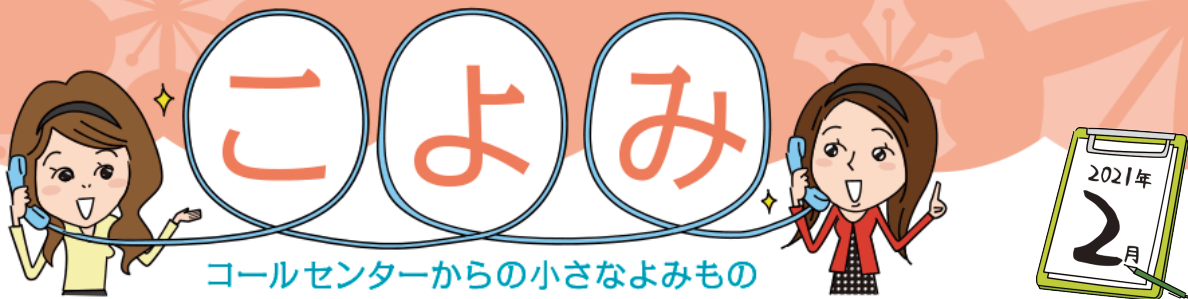
毎月5万円の積立を継続するのは簡単なことではないかもしれません。しかし、スタート時点で真剣に考えて「本気の積立」の金額を設定し、踏ん張って継続した結果、2,500万円を超えるほどの金額になれば、色々な選択肢が選び取れます。

投信積立は少額から始めることができるので、「積立ではとりあえず1万円から」とよく言われますが、日興アセットはとりあえずではなく真剣に考えて「本気の金額で」ということをお勧めします。

## One Point !

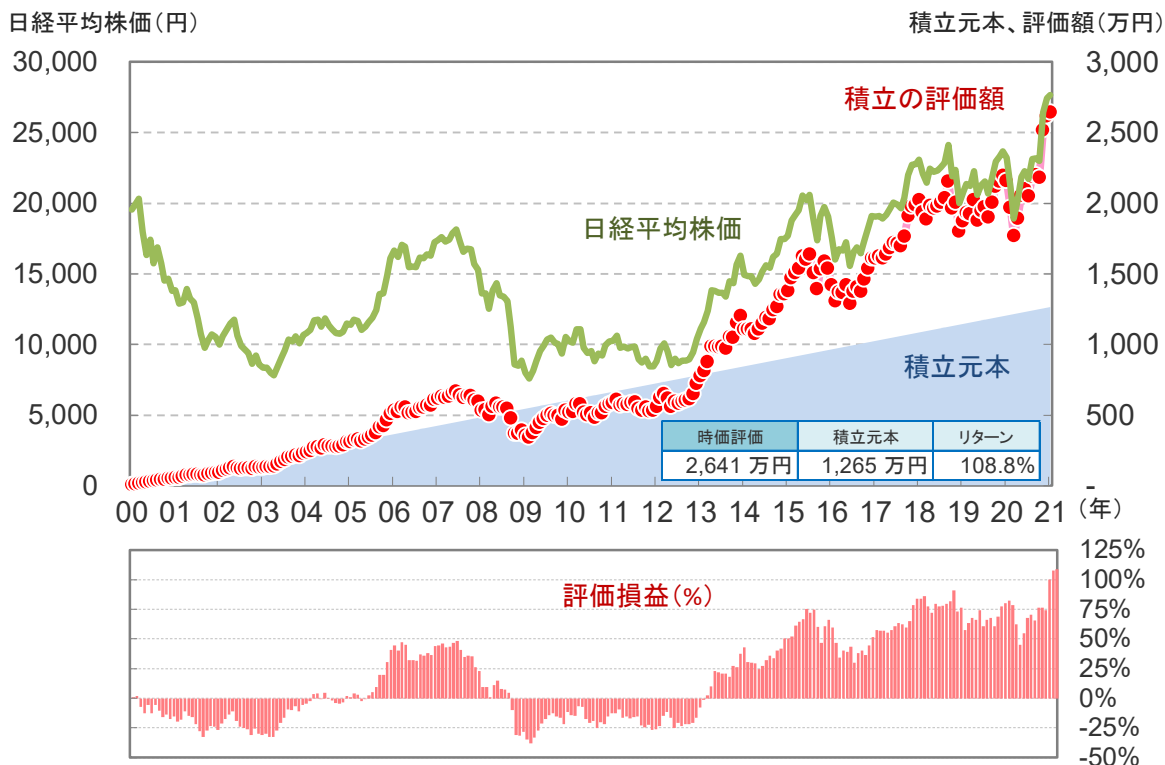


ここに来て、投資信託を使った資産形成に対する政府のサポートが充実してきました。2017年から加入要件が緩和された「個人型確定拠出年金/iDeCo(イデコ)」や、2018年1月から始まった「つみたてNISA」です。せっかくの制度は使いたいもの。制度は上手に活用しつつ、一般の投信積立を使って「本気の積立」で「株式の柱」を高くしてみたいかがでしょうか。



コールセンターからの小さなよみもの

毎月5万円を日経平均株価に投資した場合のシミュレーション



日経平均株価の月末終値に積立投資を続けた場合の時価評価(税金・手数料を考慮せず)の推移を示したシミュレーションであり、積立投資が必ず利益があがることを保証するものではありません。期間：2000年1月31日～2021年1月29日  
信頼できると判断した情報をもとに日興アセットマネジメントが作成。

nikko am



コールセンター

0120-25-1404

営業時間 平日 9:00～17:00



■ 当資料は、日興アセットマネジメントが情報提供を目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解および図表等は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■ 投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

日興AMファンドアカデミー